

SORA

web magazine 2012.oct. vol.01

photo & text : Kagii Yasuaki

MAP
CLICK!

タイ・シミラン&カオラック

Similan & Khaolak

鍵井靖章がタイのアンダマン海でつけた「SORA」。
美しく力強い海中風景と、楽しさ満点の観光地。
様々な魅力をお伝えます。

Surprise

驚き

タイ・シミラン&カオラック

Similan & Khaolak

夕方のリチェリューロックで見た景色も驚きだった。大村健さんが「このタイミングでしか見られません」と潜りなれた傾斜に行くと、そこには、ハナムロ系の小魚が群れていた。私たちのライトの光をスポットライトにして、サーチライトのように動かすと無数の光が溢れ出す。そして、その傾斜には色とりどりのソフトコーラルが群生している。まるで、花火が打ちあがり、水面にその様子が映っているようだった。年1度しか楽しめない大きな花火大会のような特別な気持ちで眺め、撮影した。

素敵な出会いに、海の神様に感謝する

シミラン諸島、コボン、コタチャイ、リチェリューロックを含むダイビングエリア・アンダマン海の魅力は、毎年変化する。もう10数年も同じように取材に赴いているが、毎回違う驚きに出会うことができる。昨年はホワイトマンタに出会った。クルーズ乗船中、コボンで撮影していると、「今、白いマンタが出ているようです」とビッグブルーカオラックのボス・大村健さんが教えてくれた。そのようなタイミングにこの海に来ている幸運を噛みしめながら、2本目をエントリー。外洋に突き出た根の上で待機していると、向こうから少し小さな個体が泳いで来た。想像していたのは、全身真っ白のアルビノのような個体だったが、実際はタトゥーを入れたような珍しい個体だった。ホワイトマンタとまではいえないが、何とも美しいマンタだった。うまく接近して、真上から背中中の模様を確認した。海の神様に感謝しながら、その稀有なデザインの個体を撮影した。きっとこのマンタに再会しても、すぐに思い出すことができるだろう。





Ocean

海

タイ・シミラン&カオラック
Similan & Khaolak

さあ、 海中散歩へ 出かけましょう

私の代表的な写真集「海中散歩」の表紙は、リチエリューロックで撮影した1枚だった。紫色のソフトコーラルの森に住むトマトアネモネフィッシュ。この写真を選んだ女性編集者と女性デザイナーはノンダイバーで、海中世界を知らない。そんな彼女たちがこの写真を表紙に推してくれた。女性デザイナーが出版記念トークショーの時に明らかにしたが、ここに写っているお魚が人気のクマノミであることも知らなかった。そんなことを差し引いても、この写真が、二人の心を掴んでいた。この写真を撮影したのは、リチエリューロック。そして、本屋さんでは、みんなが手に取ってくれる人気の写真集となった。そんな一般の人にも、気に入られる海中風景がアンドAMAN海には広がっている。私はこの表紙が大好きである。

夢く力強い海の姿

アンダマン海は、素晴らしい。これは変わらない事実。しかし、残念ながら、数年前に起きた温暖化現象でアンダマン海のサンゴ礁は大打撃を受けた。浅瀬のサンゴはガレ場となり、以前のあの美しかったサンゴ礁の面影はない。でも、これは繰り返される地球の歴史だと思う。

1998年にモルディブの起こったサンゴの白化現象。当初はとても懸念したが、10数年経過した今、サンゴ礁は、随分と蘇り場所によっては、以前よりも豊かな場所がある。10数年は長い時間だが、地球の時間で考えると一瞬。その間に、私たちは、サンゴや環境の大切さを学んだ。今、アンダマン海は同じような状況だと思う。今、確かにガレ場になってしまったが、蘇生への第一歩をもう歩み始めている。

無理に見る必要性はないかもしれないが、海の中を見つめることができるダイバーとして、少しはこの事実を知っていた方が良くと思う。そして、力強く元の様子に戻る姿も。海の中から、私たちは、たくさんのことを学ぶことができる。



エビの背中にハートを発見。
ロマンだ！(?)



タイ・シミラン&カオラック

Similan & Khaolak

ソフトコーラルはいつみても元気



Romance ロマン

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島



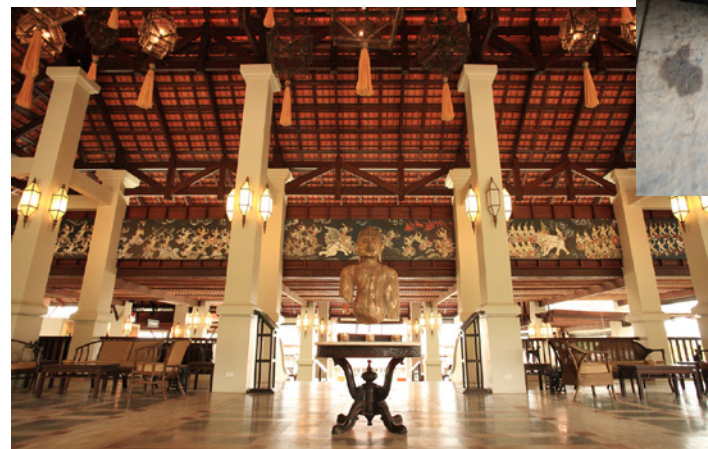
行動 Action



タイを思う存分楽しむ！

「タイは若いうちに行け」ともう随分昔のキャッチフレーズが心に残っている。他には、「そうだ、京都へ行こう」も(笑)。

タイは観光地としてもしっかりしている。たとえば、私が子供を連れて家族旅行を考えた場合も、不安はない。そして、お値打ち。ダイビング以外のアクティビティも充実しており、野生系を責めるなら象乗り。ちょっと妖しくいくならゴーパーなどなど。楽しまなくて、もったいないことばかり。もちろん、タイ料理も楽しみの一つ！ お世話になっているビッグブルーカオラックの女性ガイド陣が、ダイビングの途中で「今日のお昼は、何しよう？」と楽しく会話している。もう何年もタイに住んでいる彼女たちでも、まだお昼ご飯として、「タイ料理」を楽しみしている。タイ料理が、どれくらいすごいかが理解できるだろう。実際に、うまい！ あ〜！タイ料理が食べたい！



タイ・シミラン&カオラック

Similan & Khaolak



Information

- 国名:タイ王国 ●ビザ:有効期限内のパスポートと復路の航空券を所持していれば30日以内に限り不要 ●パスポート残存期間:6ヶ月以上 ●言葉:公用語はタイ語と英語
- 両替:日本もしくはバンコク、プーケットで可能。1 パーツ=約3円 ●時差:日本との時差は-2時間。日本が正午の時、タイは午前10時 ●電圧:電圧は交流220V(50Hz)で、プラグはBF、Cタイプ ●水:ミネラルウォーターを飲むこと。水道水は飲めない ●行き方:バンコクまでは成田から国際線で約7時間、その後国内線で約1時間かけてプーケットへ